

むかいしま ゆた しせん い 『向島の豊かな自然と生きものたち』

だい かい 第17回 タマムシとコメツキ

夏休みになると昆虫採集セットを買ってもらい、セミやトンボ、カブ、バッタなどをかなりたくさん捕っていた。友達の中でも私は多い種類を捕っていたと思うけど、捕りたくてもなかなかみつからずどこに行けばいるのかさっぱり分からなかった。

タマムシである。

3歳年上の兄貴の友達が捕まえたのを見せてもらった時の光景が今でも忘れられぬ。あの頃の虫カゴは、ブリキに金網が張ってありフタの開け閉めがスムーズにできなかったが、年上のお兄さん達は工夫してあったのか上手だったのか、開けて見せてくれた。

手のひらに乗せた、生きて動くタマムシの放つあのなんともいえない輝きは、誰でも一度見たら忘れられないくらい超キレイな虫である。夏休みが終わってもタマムシが入っていない虫箱(標本箱)はつまらなかった。

どこで、どうやって、どんな風にして捕ったか、必死で聞いて探したが私には手の届かん虫じゃった。大人になって虫集めを始めた頃、以外と早く居場所が分かり、それからは毎年必ず見つけることができる。向島では身近な虫でもある気がする。

タマムシとコメツキは、生物分類上近縁な虫という事である。

日本ではタマムシ約250種、コメツキ約600種が分布しているそうで、世界的にも温暖な地域に多いということなので、日本でも真夏の虫の代表であるのかもしれない。

ある日、コメツキを見つけたが入れるケースがなく、頭の上に置いて帽子をかぶっていたら、頭上でペタン！パン！と跳ねるのが分かってほんたう愉快な気持ちで家に帰ったことがある。

コメツキの仲間は、お腹を上にしてテーブルに置くとパン！ペタン！と上手に跳ねて起き上がることができるので『ペタン虫』と呼んでいた。

はな とり こんちやう うみべ あそ
花と鳥と昆虫と海辺に遊ぶ
つるかめクラブ